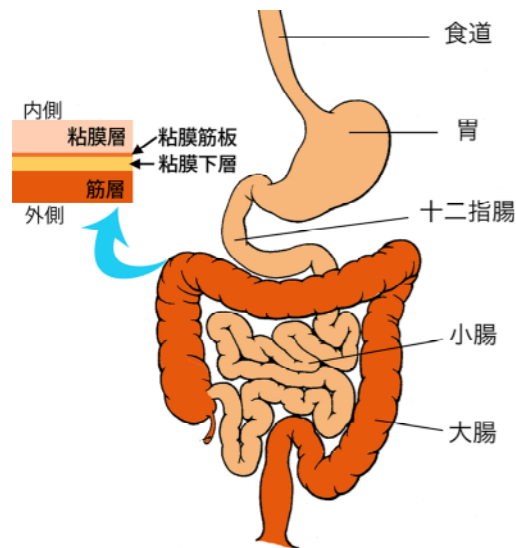


1. 潰瘍性大腸炎とはどんな病気ですか

潰瘍性大腸炎は大腸の粘膜（最も内側の層）にびらんや潰瘍ができる大腸の炎症性疾患です。特徴

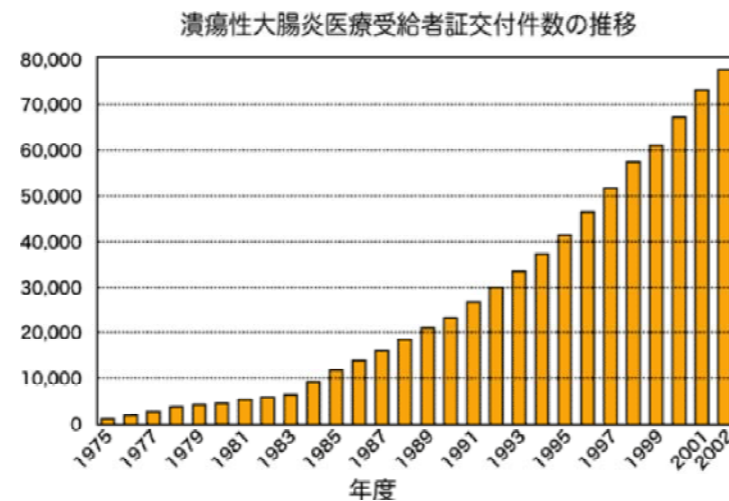


的な症状としては、下血や下痢と腹痛、発熱などです。病変は直腸から連続的に、そして上行性（口側）に広がる性質があり、最大で直腸から結腸全体に広がります。この病気は病変の広がりや経過などにより下記のように分類されます。

- 1) 病変の広がりによる分類：全大腸炎、左側大腸炎、直腸炎
- 2) 病期による分類：活動期、緩解期
- 3) 重症度による分類：軽症、中等症、重症、激症
- 4) 臨床経過による分類：再燃緩解型、慢性持続型、急性激症型、初回発作型

2. この病気の患者さんはどのくらいいるのですか

わが国の潰瘍性大腸炎の患者数は、77,073人（平成14年度特定疾患医療受給者証交付件数より）と報告されており、毎年おおよそ5,000人増加しています。米国の100万人と言われている患者数に比べると10分の1以下です。



潰瘍性大腸炎

医局長：鈴木 智貴

3. この病気の原因はわかっているのですか

原因は明らかになっていません。これまでに腸内細菌の関与や本来は外敵から身を守る免疫機構が正常に機能しない自己免疫反応の異常、あるいは食生活の変化の関与などが考えられていますが、原因はまだ不明です。

4. この病気にはどのような治療法がありますか

原則的には薬による内科的治療が行われます。

しかし、重症の場合や薬物療法が効かない場合には手術が必要となります。油断することなくきちんと通院することが手術を避けるたいせつなポイントです。

1) 内科的治療

① 5-ASA 製剤

5-ASA 製剤には従来からのサラゾピリンと、その副作用を軽減するために開発されたメサラジン（ペンタサ）があります。経口や直腸から投与され、持続する炎症を抑えます。炎症を抑えることで、下痢、下血、腹痛などの症状は著しく減少します。

② ステロイド剤

代表的な薬剤としてプレドニゾロン（プレドニン）があります。経口や直腸からあるいは経静脈的に投与されます。この薬剤は中等症から重症の患者さんに用いられ、強力に炎症を抑えますが、副作用も強く、長期的に使うことはできません。

③ 血球成分除去療法

薬物療法ではありませんが、血液中から異常に活性化した白血球を取り除く治療法です。

④ 免疫抑制剤

これらの薬剤にはイムランやロイケリン、最近ではサンディミュンがあります。基本的には、5-ASA 製剤やステロイドに無効か効果不十分な患者さんと、副腎皮質ステロイドが中止出来ない患者さん、いわゆる難治性潰瘍性大腸炎に使用されます。

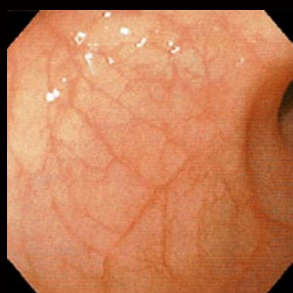
2) 外科的治療

潰瘍性大腸炎の多くは薬物治療でコントロールできますが、大量の下血や中毒性巨大結腸症、穿孔のほかステロイド長期使用例などのケースでは手術の対象となることがあります。

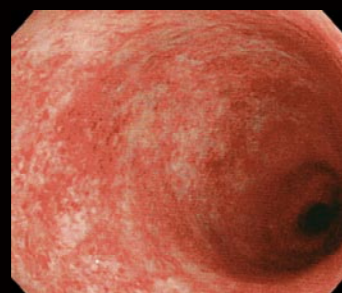
手術は大腸の全摘が基本となります。以前は人工肛門を設置する手術が行われていましたが、現在では肛門を温存する手術が主流です。この手術は大腸を取り除いた後、小腸で便を貯める袋を作って肛門につなぐ方法です。しかし現在でも緊急手術で状況が悪い場合は、肛門を切除せざるを得ないこともあります。

大腸内視鏡写真

正常粘膜



潰瘍性大腸炎



写真「胃と腸」より抜粋